

市政記者クラブ 様

令和 7 年 6 月 12 日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）楫屋、近藤 電話：972-2631
（結核）竹田、原田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和 7 年 5 月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 5 月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和 7 年 5 月	令和 6 年 5 月
◆ 一類感染症 （発生なし）	0 件	0 件
◆ 二類感染症 ・ 結核	1 9 件	2 1 件
◆ 三類感染症 ・ 腸管出血性大腸菌感染症	0 件	1 件
◆ 四類感染症 ・ マラリア ・ レジオネラ症	1 件 5 件	0 件 2 件
◆ 五類感染症（全数把握疾病） ・ アメーバ赤痢 ・ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・ クロイツフェルト・ヤコブ病 ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・ 後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む） ・ 侵襲性肺炎球菌感染症 ・ 水痘（入院例に限る） ・ 梅毒 ・ 百日咳 ・ 麻疹	1 件 2 件 1 件 3 件 5 件 1 4 件 4 件 5 0 件 7 7 件 3 件	4 件 4 件 0 件 7 件 4 件 5 件 1 件 3 3 件 1 件 0 件
◆ 五類感染症（定点把握疾病：第 18 週～第 22 週（4 月 28 日～6 月 1 日分）） ・ 4 月 7 日から、五類感染症の定点把握疾病の区分が変わり、急性呼吸器感染症（ARI）が規定されました。これにより、流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握や、新たな感染症の発生を迅速に探知することを目的としています。 ・ 報告数の多い疾病は① 伝染性紅斑（95 件：前月比 1.46 倍）、② 感染性胃腸炎（805 件：前月比 1.07 倍）となっています。		

2 トピックス

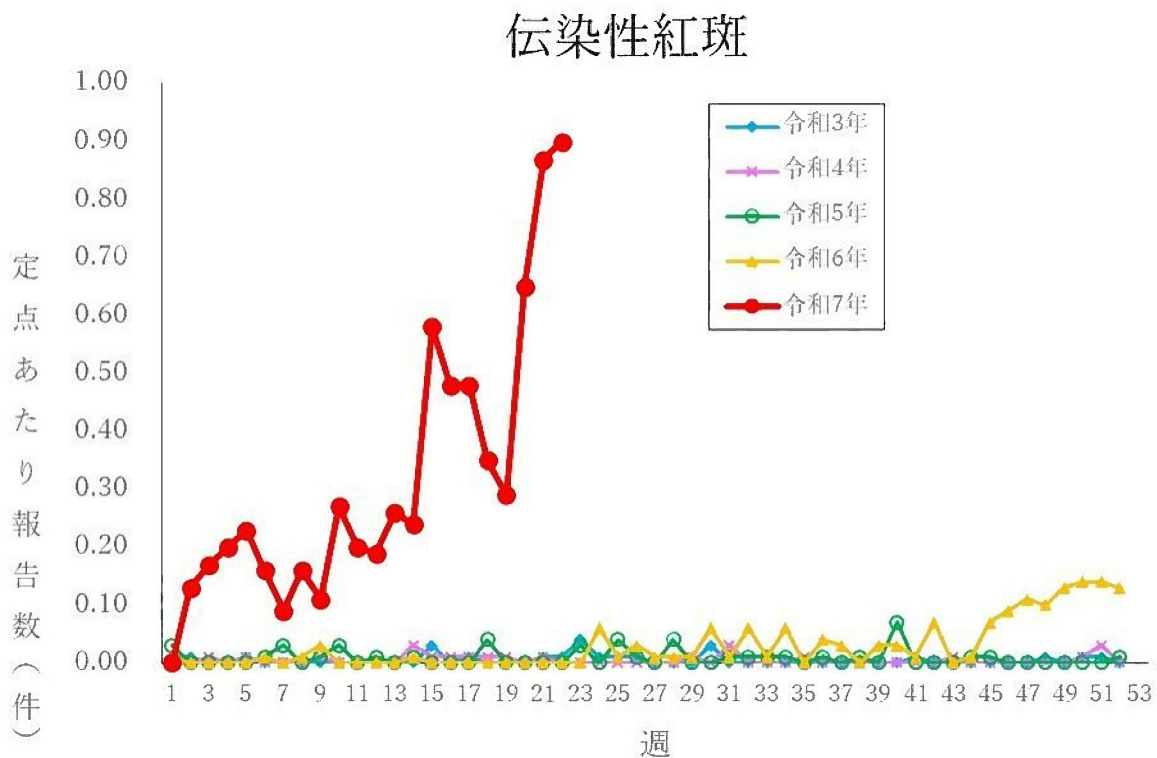
《伝染性紅斑 ～例年よりも報告数が多くなっています～》

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 により引き起こされる感染症です。患者の両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」ともいわれます。

患者は子どもに多く、感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染や、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染です。感染すると 10～20 日の潜伏期間のあと、両頬に赤い発疹や手足にレース状の発疹がでることがあります。発疹が出る 7～10 日前に、前駆症状としてかぜ様症状を呈することがありますが、この頃が最もウイルスの排出量が多く、発疹が出る頃にはほとんど感染力はありません。

多くの場合は軽症で自然に治りますが、妊娠中の方が感染すると、胎児の異常（胎児水腫）や流産になることがあるので注意が必要です。

ワクチンはなく、治療は対症療法となるため予防が重要となります。手洗い、うがい、咳エチケットを心がけ、妊娠中の方はできるだけかぜ症状の人との接触を避けるようにしましょう。



3 病原体分離情報（令和 7 年 5 月検査分）

1. 令和 7 年 4 月 23 日発症、その後市内医療機関を受診し、頸部リンパ節炎と診断された、天白区在住、59 歳、男性の検体（咽頭拭い液：4 月 26 日採取）から、乳幼児期に感染し口唇に水疱（口唇ヘルペス・ヘルペス性歯肉口内炎）ができることがあり、持続感染することが知られているヒトヘルペスウイルス 1 型（HHV-1）および小児に突発性発疹を起こし、さらに持続感染することが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型、（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和 7 年 4 月 28 日発症、その後市内医療機関を受診し、急性咽頭炎と診断された、天白区在住、38 歳、女性の検体（咽頭拭い液：4 月 28 日採取）から、かぜ症状、咽頭痛、鼻汁や鼻詰まり、熱や咳を伴い、時には結膜炎も合併することが知られているアデノウイルス 2 型（AdV-2）および小児に突発性発疹を起こすこと、さらに持続感染することが知られているヒトヘルペスウイルス 7 型、（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和 7 年 4 月 28 日発症、その後市内医療機関を受診し、けいれん重積と診断された、天白区在住、2 歳、女兒の検体（咽頭拭い液：4 月 28 日採取）から、ヒトにかぜ様症状を呈することが知られている A 群ライノウイルス（HRV-A）、かぜ症状、咽頭痛、鼻汁や鼻詰まり、熱や咳を伴い、時には結膜炎も合併することが知られているアデノウイルス 2 型（AdV-2）、さらにはこのウイルスの感染や再活性化によってさまざまな症状が引き起こされるサイトメガロウイルス（CMV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和 7 年 5 月 10 日発症、その後市内医療機関を受診し、エプスタイン・バーウイルス感染症もしくは川崎病を疑う、緑区在住、1 歳、男児の検体（咽頭拭い液：5 月 14 日採取）から、ヒトにかぜ様症状を呈することが知られている A 群ライノウイルス（HRV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出・同定、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 急性呼吸器感染症サーベイランス病原体情報

令和 7 年度 4 月 7 日より開始された急性呼吸器感染症サーベイランス（ARI サーベイ）ですが、検査体制が整備された自治体から開始されております。名古屋市におきましても 4 月 7 日より開始しました。5 月 15 日現在までの検出状況を記載します。

2025/4/7～2025/5/15 受付分（被検者 計 69 名）

検出されたウイルス	合計
AdV(アデノウイルス)	14
HRV/EV（ヒトライノウイルス/エンテロウイルス）	29
HPIV1（ヒトパラインフルエンザウイルス 1 型）	2
HPIV3（ヒトパラインフルエンザウイルス 3 型）	15
HPIV4（ヒトパラインフルエンザウイルス 4 型）	1
RSV-A（RS ウイルス A 型）	8
RSV-B（RS ウイルス B 型）	5
hMPV（ヒトメタニューモウイルス）	6
HCoV-HKU1（ヒトコロナウイルス HKU1）	1
HCoV-NL63（ヒトコロナウイルス NL63）	4
FluA/H1pdm09（A 型インフルエンザウイルス H1 亜型）	1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i> （肺炎マイコプラズマ）	4
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	1
計	91

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者より分離した百日咳菌の薬剤耐性調査を依頼され、令和 7 年 5 月 18 日に搬入された菌株を培養し、遺伝子検査を実施したところマクロライド耐性獲得遺伝子変異を確認しました。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和7年 第18週～第22週（4月28日～6月1日）

	*ARI小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (医療機関)													眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフル ンザ等感染症を除く	※ 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 呼 吸 器 感 染 症 ※	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	インフル ンザによる入院患 者	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 ※		
千種	13	30	1	1	18	73	10	3	3	2	0	0	719	0	2								875	
東	4	15	0	0	18	14	3	0	7	1	0	0	945										1,007	
北	3	20	0	7	1	25	0	0	1	2	0	0	1,007	0	0	1	1	0	0	0	5	7	1,080	
西	4	21	6	7	26	157	1	1	35	11	1	2	3,085	0	0								3,357	
中村	13	35	5	0	3	53	1	0	1	1	0	0	635	0	4								751	
中	0	6	0	0	0	22	0	0	1	0	0	0	1,024										1,053	
昭和	4	40	0	0	3	14	0	0	1	0	0	0	175	0	0	0	0	2	0	4	5	17	265	
瑞穂	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	2								96	
熱田	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	171	1	3								179	
中川	12	46	6	6	9	69	2	2	6	2	8	0	1,584			1	0	5	0	1	5	9	1,773	
港	2	20	0	0	11	31	0	0	2	0	0	0	522										588	
南	1	24	3	0	3	39	2	0	2	2	0	0	1,682	0	1								1,759	
守山	3	11	0	0	9	53	2	0	7	3	0	0	1,259										1,347	
緑	7	23	1	0	14	171	5	13	19	5	0	0	1,050	0	1								1,309	
名東	17	10	7	3	53	40	5	0	10	2	0	0	1,037	0	2								1,186	
天白	0	4	5	7	7	44	2	2	0	6	0	2	582	0	1								662	
合計	83	323	34	31	175	805	33	21	95	37	9	4	15,557	1	16	2	1	7	0	5	15	33	17,287	
前月	173	551	76	27	108	755	31	2	65	18	7	7	8,584	0	6	0	0	3	0	7	2	43	10,465	
前月比	—	—	—	—	—	1.07	—	—	1.46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
昨年同月	78	985	317	116	736	621	18	369	0	44	55	11	—	0	12	2	0	16	0	0	15	42	3,437	

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

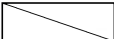
注  は、報告する医療機関がないことを表す。

*2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が増えられました。4月6日までは70定点、4月7日からは50定点

※ 4月7日（第15週）からの数を計上しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和7年 5月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染器 症ク ラミ ジア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染ス 症	尖 圭 コン ジ ロー マ	淋 菌 感 染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドリン 球耐 菌性	肺ペ 炎ニ 球シ 菌リ 感 染 症 耐 性	緑葉 膿剤 菌耐 感 性 感 染 症	
千種	4	1	0	7				12
東								
北	19	6	6	8	2	0	0	41
西	0	1	0	0				1
中村	1	1	1	0				3
中	46	46	15	21				128
昭和	15	5	8	8	4	0	0	40
瑞穂	1	0	0	0				1
熱田								
中川	9	8	6	6	6	2	0	37
港								
南	0	4	0	0				4
守山	0	1	0	0				1
緑	16	0	0	4				20
名東	2	0	0	0				2
天白	7	2	3	2				14
合計	120	75	39	56	12	2	0	304
前月	121	69	45	55	10	0	0	300
前月比	0.99	1.09	0.87	1.02	1.20	-	-	1.01
昨年同月	130	83	54	42	8	1	0	318

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

5月分患者報告数	
週報分	17,287
月報分	304
合 計	17,591

令和7年 5 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和7年 5 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症		11 (4)	52 (15)	62 (13)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	1	2 (1)
	合 計	0 (0)	11 (4)	53 (15)	64 (14)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。
注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和7年 5 月 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数
O157	-	5	31 (6)	48 (6)
O26	-	-	5 (3)	4
O103		1 (1)	5 (1)	-
O111	-	1	2	-
O165	-	-	1	-
その他	-	-	2 (1)	1 (1)
型 不 明		4 (3)	6 (4)	9 (6)
合 計	0 (0)	11 (4)	52 (15)	62 (13)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

5月

保健セン ター名	令和7年5月（※）			令和7年計（※）			令和6年計（※）			令和5年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	0	6	1	0	19	7	2	21	10	5
東	1	0	0	5	2	1	10	6	2	4	1	6
北	1	1	0	7	4	0	21	9	6	18	8	14
西	1	1	0	5	1	0	8	3	10	12	5	11
中村	1	0	2	5	0	5	22	3	7	21	4	10
中	2	1	2	4	2	5	16	7	6	21	9	12
昭和	0	0	2	5	1	4	19	5	2	13	2	6
瑞穂	0	0	0	2	1	0	8	2	2	8	2	3
熱田	0	0	0	1	0	1	10	2	3	3	1	4
中川	0	0	0	8	3	2	26	13	20	31	8	20
港	0	0	0	7	1	2	20	5	7	23	5	10
南	2	1	1	7	4	1	16	5	9	18	7	12
守山	1	0	0	6	0	0	26	11	5	21	12	11
緑	0	0	0	8	0	2	20	6	9	19	5	18
名東	1	1	0	4	3	0	10	4	4	10	4	7
天白	1	0	1	1	0	1	13	4	5	19	8	5
全市	11	5	8	81	23	24	264	92	99	262	91	154

※ 令和6・7年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年5月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	－		3	4	5
A型肝炎	－		－	1	1
エムボックス	－		－	1	3
ジカウイルス感染症	－		－	3	－
チクングニア熱	－		1	1	－
つつが虫病	－		－	1	1
デング熱	－		－	4	6
日本紅斑熱	－		－	3	1
マラリア	1		1	1	1
レジオネラ症	5		17	48	32
レプトスピラ症	－		－	－	1
合 計	6		22	67	51

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和7年5月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	1		4	20	13
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	－	－	B型： 2 － －	－ － その他： 1	B型： 2 － その他： 3
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2		11	65	53
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－		－	1	－
急性脳炎*	－		1	15	17
クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1	－	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		14	46	22
後天性免疫不全症候群	5	無症候性キャリア： 4 AIDS： 1 －	無症候性キャリア： 9 AIDS： 3 その他： 2	無症候性キャリア： 39 AIDS： 17 その他： 1	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 －
ジアルジア症	－		－	1	－
侵襲性インフルエンザ菌感染症	－		13	16	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	－		2	－	1
侵襲性肺炎球菌感染症	14		58	82	54
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	4		9	9	8
梅毒	50	早期顕症梅毒： 35 晩期顕症梅毒： 1 － 無症候梅毒： 14	早期顕症梅毒： 146 晩期顕症梅毒： 3 － 無症候梅毒： 74	早期顕症梅毒： 315 晩期顕症梅毒： 9 － 無症候梅毒： 143	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126
播種性クリプトコックス症	－		1	1	1
破傷風	－		－	－	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－		－	1	－
百日咳	77		177	35	16
麻しん	3		5	2	－
薬剤耐性アシネトバクター感染症	－		1	－	－
合 計	160		536	819	751

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：27 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 7 年 5 月 31 日時点）